

チャペル週報

No. 6

2015. 5.11 ~ 5.15

春季宗教運動特集号

主を畏れることは知恵の初め。
無知な者は知恵をも論しをも侮る。

(箴言 1章 7節)



ランパス記念礼拝堂前

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

5月11日(月) 神 「震災を覚えて」礼拝㊿ 神学部メガホンプロジェクト
経 関西学院と校歌③
人 大石 健一 (茨木春日丘教会牧師)
聖和 聖書物語 ヤコブとエサウ
理 前川 裕 (宗教主事)

5月12日(火) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
“What's in a Name?” Ruth M. Grubel (院長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
建学の精神:「地の塩」とMastery for Service 嶺 重 潔 (学長補佐)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「夢と愛」小 菅 正 伸 (副学長)

5月13日(水) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「無用の用」小 菅 正 伸 (副学長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「いのち」の土台を見つめて 舟 木 讓 (大学宗教主事)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「神は天地を創造された～関西学院のキリスト教主義とは～」田淵 結 (宗教総主事)

5月14日(木) 神 昇天日を覚えて
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 社会学部東日本震災ボランティア報告
法 献血運動と千刈キャンプについて1 宗教総部
経 English Music Chapel Timothy Dale Boyle (宣教師)
商 音楽チャペル 聖歌隊
国 English Chapel Eun Ja Lee (宣教師)
聖和 こどもの心でさんびかを 安 田 美穂子 (賛美歌歌手)
総 関西学院聖歌隊

5月15日(金) 院 Kennis Lam (香港メソヂスト教会宣教師)
神 石 森 圭一 (高等部長)
文 English Chapel Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 舟 木 讓 (宗教主事)
人 上ヶ原ハビタット
聖和 Until all are fed 村 瀬 義 史 (総合政策学部宗教主事)
理 前川 裕 (宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)
5月12日(火) 宗教運動のために 小川 晃 司 (保健館事務長)
5月15日(金) 国際連携機構のために 前田 高 志 (国際連携副機構長)

What's in a Name?

Ruth M. Grubel

In the balcony scene from Shakespeare's tragedy, *Romeo and Juliet*, the heroine speaks to her lover with these famous words:

“What's in a name? that which we call a rose
By any other name would smell as sweet.”

Without considering the details of Shakespeare's story, we can easily accept Juliet's statement that a rose smells as sweet when we call it something else, such as ばら. How important is a name - really?

I am asking this question because I recently saw a photo of a letter written by Chancellor Bates, and the printed name on the Kwansei Gakuin letterhead was “West Japan College.” Evidently, the name “Kwansei Gakuin” must have been too difficult for non-Japanese to understand, so a translation was used to identify our school to English speakers. Although we no longer call ourselves West Japan College (or University), we often hear from both Japanese and non-Japanese speakers that the pronunciation of Kwansei Gakuin is difficult.

According to the *Kwansei Gakuin Centennial History*, our school's founder, Walter R. Lambuth and the person who would become the second president of Kwansei Gakuin, Yoshioka Yoshikuni, considered many things when they chose a name for the new school in 1889. In those days, few schools, including Christian schools, had “Gakuin” as part of their names, so it was considered to be a rather innovative choice. “Kansai” was also not a common term in the late 19th century, but in contrast to “Kanto” or eastern Japan, the founders wanted their new school to focus on leadership in western Japan, so decided to include that regional name. Even the pronunciation was chosen to reflect the style favored by progressive students of the day.

Now that nearly 126 years have passed, both “Kansai” and “Gakuin” are in common use, and the “Kwansei” pronunciation is an anachronism. It is true that our school name is part of our identity now, and each member of Kwansei Gakuin has a personal connection to it, but rather than focusing on West Japan, we are reaching out to a global 21st century society while continuing to base our educational philosophy on the principles of Christianity and our mission to nurture world citizens who embody “Mastery for Service.” Just as Juliet's rose would smell as sweet by any other name, our school's reputation will also continue to “be sweet” if it is based on the effective pursuit of our inspiring ideals, regardless of the name on our letterhead.

(院長)

建学の精神：「地の塩」と Mastery for Service

嶺 重 淑

“Mastery for Service”（奉仕のための練達）— 4月に入学された新入生の皆さんも、このスクール・モットーはすでに何度も耳にされたことと思います。事実、この言葉は今では関学の精神を一言で表現するキャッチフレーズ（合言葉）のようになっており、多くの関学関係者から愛されています。しかし、この言葉の意味するところは必ずしも明確ではなく、その理解は人によって様々であるように思います。

私が所属する人間福祉学部は7年前に開設された比較的新しい学部ですが、「あなたがたは地の塩である」（マタイ 5:13）というイエスの言葉を学部の聖句として定めています（因みにお隣の国際学部の聖句は「あなたがたは世の光である」）。そこで今回は、この言葉との関連から、私の考える“Mastery for Service”についてお話してみようと思います。

「地の塩」の「地」はこの世界を意味し、「塩」とは言うまでもなく、食べ物に味をつけ、保存し、さらには汚れを清める等、様々な機能をもつあの塩のことです。その意味でも、この「地の塩」という表現は、この世界にあって重要な役割を果たす貴重な存在を指し示しており、「あなたがたは地の塩である」という言葉は、まさにあなたがたこそが、そのような貴重な存在なのだと言明しているのです。

しかし、ここで注目したいのは「地の塩」の極めて地味なイメージです。実際に大地に塩がまかれたとしても、それに気づく人はいないでしょう。その意味では、その働きは地味で目立たなくても、なくてはならない不可欠な存在を、この言葉は言い表していることになります。事実、私たちの周囲には、その働きは注目されなくても、無くてはならない貴重な働きをされている方が数多くおられます。そしてそのように、人から評価されなくても、それぞれの置かれた場で他者に仕え、社会に貢献している人こそが、真の意味での Mastery for Service の体現者と言えるのではないのでしょうか。

（学長補佐）

無用の用

小 菅 正 伸

商学部の会計コースで教えているため、この時期、新入生から次のような質問を受けることが多い。「公認会計士か税理士になりたいので、現役で合格するためにはどんな勉強をこれからすれば良いか。」といった内容の質問である。プロになるためには超難関試験を突破する必要があるので、当然のこととして、試験科目の勉強に取り掛かからなければならない。通常は、その準備として日本商工会議所主催の簿記検定試験の受験を勧めている。一心不乱に勉強しても、通常、会計士試験や税理士試験の合格には平均3年はかかる。

ただ、年々、目先の利益や目的の達成に直接に役立つことにしか興味を示さない学生が増えてきている。じっくりと考えることもせず、すぐに解答を求め、正答がないような問いには見向きもしない、といった傾向が強くなってきている。「ゆとりの欠如」が際立ってきたように思われる。

そこで、1年生の演習では、大学生の時ではできないことに挑戦するよう強く推奨している。いわゆる「無用の用」の勧めである。「無用の用」は『莊子』や『老子』で説かれている有名な言葉であり、この言葉は「一見役に立たず実用性がないとみえるものが、実は大切な役割を果たしていて、真に有益な働きがある」ことを意味している。

真面目に受験勉強に明け暮れ、「試験に合格して資格さえ取れば将来は安泰で、後は何とかなる」と思い込んでいる学生は多いけれども、世の中はそんなに甘いものではないし、資格の取得は単にプロとしてのスタートラインに立つことができただけでしかない。勉強はいつから始めても決して遅くはない。

そこで、いずれプロになり、将来プロとして大成するためにも、受験のための勉強以上に、「異質な立場を理解することにより人間性を陶冶する」ことが大切であることをゼミ生たちに説いてきた。アメリカンフットボール、サッカー、硬式野球、スケート、ラクロスといった体育会各部で活躍した後、一念発起して現在は公認会計士や税理士として活躍しているゼミ生たちがいる。彼ら／彼女らは教員としての私の誇りであり、関西学院の教育理念を体現する一つの好例であると確信している。

(副学長)

「いのち」の土台を見つめて

舟 木 讓

私たちは日常の中で、自らの「いのち」がどのような土台の上に存在しているのかという大切な事柄に心を向けることに怠惰ではないでしょうか。しかし、ひとたび自らの「いのち」に真摯に向き合う時、それを真に「豊かに」するために何が必要か、という問いに誰しもが立たされるはずで、『聖書』に登場する、「永遠のいのち」を求めて悩み続けイエスのもとを訪れた「金持ちの男」もその一人でありました。

彼はこれまでユダヤ教の律法を完璧に守ることが出来る資質と環境に恵まれ、また極めて裕福な状態でしたが、真の平安を実感できず、自らに「欠けている」ものを求めてイエスにすがります。イエスは彼の「不安」の根源を見抜き、全ての「持ち物を捨てる」ように告げますが、彼はその答えの前に絶望し、立ち去ってしまいます。この一見残酷なイエスの教えは、何を示唆しているのでしょうか。

私たちは本来何も飾らない「いのち」を与えられてこの世に生を受けます。しかし、その後の歩みの中で、いかに多くの「飾り（名誉や富や権力等々）」を「持つ」かによって自らの「豊かさ」を計ろうとしていきます。ただそうした「豊かさ」は所詮他者との「比較」によってしか計ることが出来ず、常に不安と焦燥に苛まれます。私たちの「いのち」は、本来「何ものにも代えがたい存在」として価値があるにもかかわらずその端的な事実を忘れた時、私たちは無意味な「持ち物」探しに翻弄されます。

関西学院の土台とその後の歩みを省みるとき、その原点はイエスのこうした教えの前に立たされた私たちが歩むべきひとつのあり方であったと考えられます。関西学院のスクールモットー「Masery for Service」の根拠となった聖書箇所には「皆の主人になりたいものは皆の僕（奴隷）となれ」というようにあります。奴隷とはもっとも弱い、何も誇れるものを持たない存在であったわけですが、そうした存在として自らや他者、世界や社会を見直した時、逆にこの世界が見落としている「いのち」の真の土台に気づくことが出来、人々の「裸のいのち」がそのままに大切にされるべき真の優しい社会のあり方が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

(大学宗教主事)

初めに、神は天地を創造された

田 淵 結

「初めに、神は天地を創造された」。あなたがもし、ふと聖書を読んでみようとおもって最初のページを開くと、こんな言葉からはじまります。さて、あなたは どう 思いますか。なるほど そうなのか、と納得してさらに読み進めるか、神が世界をつ くれたなんてことナンセンスだ、そんな聖書のことばを信じているキリスト教って 意味があるのかな、と思って聖書を閉じてどこかに片付けてしまうか、さてどちら でしょう。でもこの言葉があるからこそ、皆さんは関西学院で今学んでいるので す。関西学院は1889年、当時の学院憲法によると「キリスト教の主義」による教育 を目指して創立されました。そのことは126年後の現在も、学校法人関西学院の最も 重要な規程である寄付行為にも、同じく関西学院大学の学則の冒頭でもはっきりと 記されています。またこの規程は文部科学省に認可されているのですから、あえて 言えば政府もまたそれを認めている、ということになるのでしょうか。それはとも かく、関西学院は神の存在を確信し、聖書の言葉に導かれた宣教師たちによって創 立されたのですし、今も関西学院はその確信を継承しつづけている学校なのです。

21世紀になって、科学の発展は目覚ましく、宇宙開発などの壮大なスケールから ナノレベルでの分野まで、その成果によって私たちの生活も快適で豊かになっていま す。医療の進歩によって難病といわれた症状も克服されてきました。今さら宗教 を信じるとか、神の存在とか、やはり現代においてそんなことはナンセンスなわけ でしょう。

数年前『ゼロ・グラビティ』という映画を見ました（原題：Gravity）、監督アル フォンソ・キュアロン、2013年）。宇宙科学の成果である宇宙ステーションを舞台 としたSF映画で、その主人公女性宇宙飛行士ライアンはステーションの事故により 生命の危機に直面します。そのとき彼女は思わず“Oh my God!”と叫ぶのです。最 高水準の科学的成果を駆使する彼女が、自分にとって危機的瞬間に“my God!”と いう言葉を口にするのは、キリスト教を担当する宗教主事である私としては、と ても興味深い場面でした。近未来的な、さらに科学的発展が約束されている中で生 きる人間にも、やはり神の存在は無意識にせよ前提とされているのでしょうか。人生 の決定的瞬間を支えるためには、人間を超える存在を意識せざるを得ないのでしょ う。16世紀ヨーロッパ、宗教改革というキリスト教の動きが活発化するなかで『ハ イデルベルグ信仰問答書』という書物が発行されました。その最初に「生きるにも 死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか。」という問いがあります。そして 真剣にその問いに向き合う時、その答えは神を意識しなければ答えることができな いのです。

聖書の最初の物語は、その神様が6日間で世界を創造し、7日目に休まれたとい う天地創造物語ですが（だからこそ私たちも一週間は七日でその一日を休んでいる のです）、その世界は「極めて良」く（very good）、「完成された」（completed）も のでした。この物語を読みながら、私はこれからの科学の進歩発展に大きな期待を よせています。世界は神が造った、つまり私たち人間の小さな想像や思いをはるかに 超えたパーフェクトなものであることを、聖書の物語は私たちに伝えようとして います。だからこそ、人間の英知を最大限に生かして、その素晴らしい世界の豊かさ、深さ、可能性を私たちは求め続けていきますし、その上でさらに大きな世界の 広がりを感じるようになるのです。

（宗教総主事）

●ランパスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランパス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると、関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

- 5月11日(月) 関西学院大学混声合唱団エゴラド
- 5月14日(木) 関西学院交響楽団 弦楽アンサンブル
- 5月21日(木) 関西学院交響楽団 管楽アンサンブル
- 5月28日(木) 関西学院バロックアンサンブル
- 6月1日(月) 関西学院大学応援団総部 吹奏楽部
- 6月3日(水) 関西学院ハンドベルクワイア
- 6月10日(水) 関西学院聖歌隊
- 6月11日(木) 関西学院ゴスペルクワイア Power Of Voice

いずれも12時50分～13時20分

ところ：ランパス記念礼拝堂（西宮上ヶ原キャンパス）

主催：宗教センター・宗教音楽委員会

●書道部「聖句展」

とき：5月11日(月)～15日(金)

ところ：吉岡記念館1階ラウンジ

●第3回関学レインボーウィークのご案内

キャンパス内の虹のような多様な「カラー」を認め合い、誰にとってもいきやすい「学びの共同体」を目指すことを宣言した関西学院。そのために、あなたは何をしますか？

*オープニングイベント

とき：5月11日(月) 12:40～13:30 (昼休み)

ところ：西宮上ヶ原キャンパス中央芝生 (時計台前)

*パネル展示

期間：5月11日(月)～15日(金)

ところ：図書館エントランスホール (西宮上ヶ原キャンパス)

アカデミックコモズ・インフォメーションホール (神戸三田キャンパス)

山川記念館2階チャペル横フロアー (西宮聖和キャンパス)

*映画上映

とき：5月12日(火) 16:50～19:00

ところ：関西学院大学図書館ホール (大学図書館B1、西宮上ヶ原キャンパス)

主催：人権教育研究室

共催：学生支援相談室、インクルーシブ・コミュニティ促進委員会

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50～18:20 1405教室)

2015年5月主題：「建学の精神」

5/14 舟木 謙 (大学宗教主事)

5/21 田淵 結 (宗教総主事)

5/28 Jeffrey Mensendiek (宗教センター宗教主事)

●オルガン音楽の泉 2015 Spring Semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

12:50～13:20 [開場12:40予定]

関西学院中央講堂 (125周年記念講堂)

第1回 6月4日(木) 西山 聡子 (本学オルガン講師)

第2回 6月12日(金) 坂倉 朗子 (本学オルガン講師)

第3回 6月23日(火) 瀬尾 千絵 (日本基督教団 神戸教会オルガニスト)

第4回 7月1日(水) 太宰 まり (関西学院オルガニスト)

お問い合わせ 宗教センター